

4 番（小川義昭君）

それでは、3 点目は医療と介護の連携と施設入所待機者の対策についてであります。

医療の分野では地域の中核病院とホームドクターなどのすみ分けが進められていますが、一方では急性期治療が終わり安定期に入った患者は早期退院を勧められても、自宅介護ができず、入所介護施設の待機者が減らない現状があります。国ではこうした事態を想定しながらも、療養型ベッドを 36 万床減らすという方針を決めており、現在は一時凍結されておりますが入所待機者へ抜本的な改善策が示されず、それぞれの現場の苦渋は深いものがあります。

病院から介護老人保健施設、そして自宅へというサイクルの中で中間的な存在である介護老人保健施設の重要性を再認識し、その上で特別養護老人ホームの役割や在宅介護や、在宅医療のあり方や現実的な対応策を、市はどのように考えておられるのかをお伺いいたします。